

子供を対象とした地域密着型スポーツクラブが果たしている役割について

松原 梨実 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

担当教員 狩野孝之

キーワード：地域密着型スポーツクラブ，子ども，運動習慣

1. 緒言

近年子どもの体力低下や、学校体育以外での運動習慣を持たない子どもが増加していることが問題として挙げられている。子ども達の身近に、運動の機会を提供する場が存在するかどうかは、大きな問題であると考えられる。今回は大阪府 S 町にある、子どもを対象とした地域密着型スポーツクラブを研究対象とした。このスポーツクラブは比較的小規模であり、特定のスポーツに特化はしていないが、地域の子どもたちを対象に、基礎的な運動能力を高める運動指導を行っている。

2. 目的

このスポーツクラブに参加している子どもの保護者を対象に、こうしたスポーツクラブに期待される役割や満足度、達成感をアンケートで調査し地域スポーツクラブが果たしている役割と存在意義について検討する。

3. 調査方法

【調査対象者及び方法】

大阪府 S 町にある子どもを対象とした地域密着型スポーツクラブに子どもを通わせている保護者 50 名に対して、2016 年 10 月～11 月にアンケート調査を行った。就学前の子どもを持つ保護者、小学生 1 年から 6 年の子どもを持つ保護者から構成されている。

4. 結果

「人見知り緩和」や「友達作り」などの回答があった。運動とは関係ないが、社会参加能力を養うために子どもを、加入させたこともわかっ

た。それと集団でスポーツを取り組むことにより社会参加の能力の育成に繋がっていることが検証された。また、スポーツクラブに加入し、コミュニケーション能力の向上やスポーツクラブが居場所づくりになっているということが検証された。

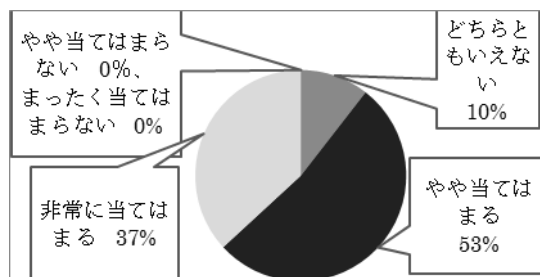


図 1：スポーツクラブ参加でコミュニケーション能力が向上した

5. 考察

加入動機の欄には、「競争心を育てたいと回答した保護者がいた。子どものうちから競争心などを身につけさせたいと思っている保護者も少なくないということが分かった。運動とは関係ないが、社会参加能力を養うために子どもを加入させたこともわかった。自身の仮説のように、集団でスポーツを取り組むことにより社会参加の能力の育成に繋がっていることが検証された。

主な引用参考・文献

金子勝司 東野充成 村田敦郎 (2008) 「スポーツと子どもの発達に関する研究」—子ども向け地域スポーツクラブに対する親の期待感と高揚感— 共栄学園短期大学研究紀要 24 P91-101